

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年11月14日
【四半期会計期間】	第110期第2四半期(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)
【会社名】	日立ツール株式会社
【英訳名】	Hitachi Tool Engineering, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 島 順彦
【本店の所在の場所】	東京都江東区東陽四丁目1番13号
【電話番号】	03-3615-5471
【事務連絡者氏名】	取締役財務担当 古田章司
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区東陽四丁目1番13号
【電話番号】	03-3615-5471
【事務連絡者氏名】	取締役財務担当 古田章司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第110期 第2四半期連結 累計期間	第110期 第2四半期連結 会計期間	第109期
会計期間		自 平成20年 4月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成20年 7月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高	(百万円)	12,601	6,055	25,175
経常利益	(百万円)	3,104	1,275	5,889
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,860	736	3,556
純資産額	(百万円)		24,235	23,082
総資産額	(百万円)		32,529	31,310
1株当たり純資産額	(円)		882.65	840.64
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	67.76	26.83	129.36
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)		74.50	73.72
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,143		6,426
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	867		3,701
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	412		885
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		11,371	9,535
従業員数	(名)		884	858

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	884 (153)
---------	--------------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	821 (152)
---------	--------------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第2四半期会計期間の平均人員を()外数で記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

事業の種類別セグメントは産業用工具の製造・販売のため単一セグメントとなっております。

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を用途別に示すと、次のとおりであります。

用途別の名称	生産高(百万円)
チップ	2,471
切削工具	3,144
耐摩工具	96
その他	244
合計	5,958

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績を用途別に示すと、次のとおりであります。

用途別の名称	受注高(百万円)	受注残高(百万円)
チップ	2,373	696
切削工具	3,210	1,026
耐摩工具	85	37
その他	247	52
合計	5,916	1,812

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を用途別に示すと、次のとおりであります。

用途別の名称	販売高(百万円)
チップ	2,515
切削工具	3,189
耐摩工具	98
その他	250
合計	6,055

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第2四半期連結会計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)
(株)Na I T O	744	12.3

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間の経済環境は、アメリカ金融市場の混乱が世界経済に波及し、実体経済の減速が懸念される状況になってまいりました。国内経済におきましても、自動車をはじめとした製造業において、生産調整や設備投資抑制の動きが見られるなど、景気の減速懸念は一段と高まってまいりました。当工具業界におきましても、自動車・IT関連等の伸び悩みから今後の業況への影響が懸念される状況にありました。

このような環境下で、当社グループの当第2四半期連結会計期間の売上高は、環境負荷の低減と加工コストを低減する「ECO² (Ecological & Economical)」活動を推進することにより、アジアを中心に海外売上が伸長した結果、60億5千5百万円となりました。利益面につきましては、営業利益12億6千5百万円、経常利益12億7千5百万円、四半期純利益7億3千6百万円となりました。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

自動車・IT関連の伸び悩みの影響を受けて、売上高57億9百万円、営業利益11億9千2百万円となりました。

欧州

景気の停滞と為替の影響により、売上高7億6千8百万円、営業利益1億3千1百万円となりました。

その他の地域

中国経済は堅調に推移し、売上高3億6千5百万円、営業利益2千9百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産合計は、325億2千9百万円となりました。これは関係会社キャッシュプール金の増加が主な要因となっております。

負債合計は、82億9千3百万円となりました。これは退職給付引当金の増加が主な要因となっております。

純資産合計は、242億3千5百万円となりました。これは利益剰余金の増加が主な要因となっております。この結果、自己資本比率は74.5%、1株当たり純資産は882.65円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、113億7千1百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益は12億7千5百万円となりました。また、減価償却費が5億7千9百万円、法人税等の支払額が6千9百万円となりました。これらの結果、営業活動によるキャッシュ・フローは22億2千1百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出6億8千4百万円等により、投資活動によるキャッシュ・フローは7億3千5百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

自己株式の取得による支出により、財務活動によるキャッシュ・フローは0百万円の支出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は273百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	27,514,802	同左	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	
計	27,514,802	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年9月30日		27,514,802		1,455		807

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日立金属株式会社	東京都港区芝浦 1 - 2 - 1	14,033	51.00
ユニオンツール株式会社	東京都品川区南大井 4 - 1 5 - 8	2,014	7.32
日立ツール取引先持株会	東京都江東区東陽 4 - 1 - 1 3	845	3.07
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 1 1	579	2.11
日興シティ信託銀行株式会社 (投信口)	東京都品川区東品川 2 - 3 - 1 4 シティグループセンター	565	2.05
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 - 1 1 - 3	552	2.01
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口 4 G)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 1 1	315	1.15
株式会社トータルインフォメー ションエージェンシ	神奈川県横浜市金沢区釜利谷西 2 - 3 6 - 4	194	0.71
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町 2 - 2 - 2	156	0.57
日立ツール社員持株会	東京都江東区東陽 4 - 1 - 1 3	127	0.46
計		19,383	70.45

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 57,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,449,000	274,490	
単元未満株式	普通株式 8,802		
発行済株式総数	27,514,802		
総株主の議決権		274,490	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,500株(議決権35個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式32株が含まれております。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日立ツール株式会社	東京都江東区東陽 四丁目1番13号	57,000		57,000	0.21
計		57,000		57,000	0.21

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,288	1,328	1,480	1,466	1,429	1,288
最低(円)	960	1,210	1,300	1,258	1,281	948

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものです。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、第1四半期連結会計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)から「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,539	1,412
受取手形及び売掛金	2,867	3,266
商品及び製品	1,510	1,258
仕掛品	664	664
原材料及び貯蔵品	363	284
関係会社キャッシュプール金	9,831	8,123
繰延税金資産	736	688
その他	419	214
貸倒引当金	63	73
流動資産合計	17,870	15,839
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 3,003	1 3,126
機械装置及び運搬具（純額）	1 5,837	1 6,267
土地	3,303	3,303
その他（純額）	1 981	1 648
有形固定資産合計	13,125	13,346
無形固定資産	131	108
投資その他の資産		
投資有価証券	620	1,360
繰延税金資産	573	422
その他	210	232
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	1,402	2,015
固定資産合計	14,659	15,470
資産合計	32,529	31,310

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,073	1,166
未払法人税等	1,369	1,444
未払消費税等	-	66
未払費用	1,261	1,228
役員賞与引当金	10	27
その他	2,600	2,378
流動負債合計	6,316	6,312
固定負債		
退職給付引当金	1,876	1,781
役員退職慰労引当金	63	89
繰延税金負債	-	3
その他	38	41
固定負債合計	1,977	1,916
負債合計	8,293	8,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,455	1,455
資本剰余金	807	807
利益剰余金	21,727	20,265
自己株式	68	68
株主資本合計	23,921	22,459
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	246	472
為替換算調整勘定	67	150
評価・換算差額等合計	313	622
純資産合計	24,235	23,082
負債純資産合計	32,529	31,310

(2)【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	12,601
売上原価	6,909
売上総利益	5,691
販売費及び一般管理費	¹ 2,606
営業利益	3,085
営業外収益	
受取利息	63
受取配当金	10
為替差益	75
助成金収入	43
特許料収入	15
その他	38
営業外収益合計	245
営業外費用	
売上割引	182
その他	43
営業外費用合計	226
経常利益	3,104
特別利益	-
特別損失	-
税金等調整前四半期純利益	3,104
法人税、住民税及び事業税	1,279
法人税等調整額	35
法人税等合計	1,244
四半期純利益	1,860

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	6,055
売上原価	3,526
売上総利益	2,528
販売費及び一般管理費	1,262
営業利益	1,265
営業外収益	
受取利息	27
為替差益	66
その他	21
営業外収益合計	115
営業外費用	
売上割引	88
その他	18
営業外費用合計	106
経常利益	1,275
特別利益	-
特別損失	-
税金等調整前四半期純利益	1,275
法人税、住民税及び事業税	529
法人税等調整額	8
法人税等合計	538
四半期純利益	736

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	3,104
減価償却費	1,115
退職給付引当金の増減額（は減少）	94
貸倒引当金の増減額（は減少）	6
受取利息及び受取配当金	73
固定資産除却損	19
売上債権の増減額（は増加）	363
たな卸資産の増減額（は増加）	367
仕入債務の増減額（は減少）	62
その他	212
小計	4,398
利息及び配当金の受取額	73
法人税等の支払額	1,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,143
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	1,187
無形固定資産の取得による支出	26
投資有価証券の取得による支出	1
投資有価証券の売却による収入	342
その他	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	867
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	411
自己株式の取得による支出	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	412
現金及び現金同等物に係る換算差額	27
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,835
現金及び現金同等物の期首残高	9,535
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,371

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年9月30日)
<p>1 会計処理基準に関する事項の変更</p> <p>(1) 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用</p> <p>「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会平成18年5月17日実務対応報告第18号)を第1四半期連結会計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) リース取引に関する会計基準等の適用</p> <p>「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成5年6月17日最終改正平成19年3月30日企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成6年1月18日最終改正平成19年3月30日企業会計基準適用指針第16号)を第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。</p> <p>また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年9月30日)	
1	<p>一般債権の貸倒見積高の算定方法</p> <p>当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。</p>
2	<p>繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法</p> <p>繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。</p>
3	<p>連結会社相互間の債権債務及び取引の相殺消去</p> <p>連結会社相互間の債権と債務の相殺消去</p> <p>当該債権の額と債務の額に差異が見られる場合には、合理的な範囲内で当該差異の調整を行わないで債権と債務の相殺消去しております。</p> <p>連結会社相互間の取引の相殺消去</p> <p>取引金額に差異がある場合で当該差異の重要性が乏しいときには、親会社の金額に合せる方法により相殺消去しております。</p>
4	<p>未実現損益の消去</p> <p>四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年9月30日)
1 税金費用の計算 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。 なお、法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年9月30日)
当社は、平成20年5月27日開催の取締役会において役員退職慰労金制度の廃止を決議し、平成20年6月20日開催の株主総会において役員の実際の退任時に取締役会で決議、又は監査役の協議による金額を支払うことが承認されました。役員退職慰労金制度廃止日(平成20年6月20日)までの在任期間に対応する退職慰労金として、従来の役員慰労金規則に基づいて当第2四半期連結累計期間末における支給見込額を役員退職慰労引当金に計上しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 21,877百万円	1 有形固定資産の減価償却累計額 21,116百万円

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費の主なもの	
主要費目	金額(百万円)
販売雑費	239
給与諸手当	1,116
福利厚生費	188
旅費交通費	158
賃借料	189
減価償却費	22
荷造発送費	103
役員退職慰労引当金繰入額	7
退職給付費用	60
役員賞与引当金繰入額	10

第2四半期連結会計期間

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費の主なもの	
主要費目	金額(百万円)
販売雑費	96
給与諸手当	557
福利厚生費	100
旅費交通費	64
賃借料	87
減価償却費	12
荷造発送費	52
役員退職慰労引当金繰入額	2
退職給付費用	30
役員賞与引当金繰入額	4

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	1,539百万円
関係会社キャッシュプール金	9,831 "
現金及び現金同等物	11,371百万円

「関係会社キャッシュプール金」はキャッシュプールシステムに対する預け金であります。

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	27,514,802

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	57,032

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月20日 定時株主総会	普通株式	411	15	平成20年3月31日	平成20年6月23日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年10月20日 取締役会	普通株式	411	15	平成20年9月30日	平成20年11月28日	利益剰余金

5. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当第2四半期連結会計期間におけるリース取引残高は、前連結会計年度末に比べて著しい変動がありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)

その他有価証券で時価のあるものが、事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

	取得価額(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	196	612	415
債券			
その他			
合計	196	612	415

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

当社及び連結子会社の事業は、産業用工具の製造・販売ならびにこれらに付随業務の単一事業であり、当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,925	764	365	6,055		6,055
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	784	3		788	(788)	
計	5,709	768	365	6,843	(788)	6,055
営業利益	1,192	131	29	1,353	(87)	1,265

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	欧州 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	10,222	1,802	577	12,601		12,601
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,656	16		1,673	(1,673)	
計	11,879	1,818	577	14,274	(1,673)	12,601
営業利益	2,906	303	44	3,254	(169)	3,085

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
(1) 欧州・・・ドイツ
(2) その他の地域・・・中国

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	764	1,124	57	1,947
連結売上高(百万円)				6,055
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	12.6	18.5	1.0	32.2

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	1,802	2,165	115	4,083
連結売上高(百万円)				12,601
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	14.3	17.2	0.9	32.4

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州・・・ドイツ

(2) アジア・・・中国、韓国、タイ

(3) その他の地域・・・アメリカ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 . 1 株当たり純資産額

当第 2 四半期連結会計期間末 (平成20年 9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年 3月31日)
882.65円	840.64円

(注) 1 株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第 2 四半期連結会計期間末 (平成20年 9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年 3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	24,235	23,082
普通株式に係る純資産額(百万円)	24,235	23,082
差額の主な内訳(百万円)		
普通株式の発行済株式数(株)	27,514,802	27,514,802
普通株式の自己株式数(株)	57,032	56,835
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(株)	27,457,770	27,457,967

2 . 1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益

第 2 四半期連結累計期間

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成20年 4月 1日 至 平成20年 9月30日)	
1株当たり四半期純利益	67.76円
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	

(注) 1 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成20年 4月 1日 至 平成20年 9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 (百万円)	1,860
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,860
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 (百万円)	
普通株式の期中平均株式数(株)	27,457,873

第2四半期連結会計期間

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純利益	26.83円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 (百万円)	736
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	736
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 (百万円)	
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,457,813

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第110期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)中間配当については、平成20年10月20日開催の取締役会において、平成20年9月30日の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	411百万円
1株当たりの金額	15円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成20年11月28日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月14日

日立ツール株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 榮一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片倉 正美 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中文 康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日立ツール株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日立ツール株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。